

【目的】近年、わが国は、高齢化社会となり、骨粗鬆症および骨折頻度の増加が問題となっている。高齢者の骨折は日常の生活活動を制限するのみでなく、これが寝たきり、あるいは老人性痴呆につながることも多い。そこで、本達は前回に引き続き、骨折予防の見地から、骨折に関連する要因を見い出すことを目的とし、同時に肥満との関係や女性では閉経についても調査した。

【方法】長崎県内、老人ホーム（特別養護・養護・軽費・有料）の49施設2045名（男589名、女1456名）を対象とし、調査票を使用して、栄養士および指導員による面接調査を行った。

【結果】①対象者の骨折経験の割合は20.9%であった。男女差を年齢別にかきと、男性は20歳代と60～70歳代、女性は70～80歳代が高い。高齢期に入つての初回骨折者は309名で骨折者の21.4%である。男性は60～70歳代、女性は70～80歳代に多い。

(2)骨折場所は外巻先、部屋、廊下が多く、転倒やつまづきが多い。

(3)骨折部位は手や足が多く、50歳以上では大腿骨が多くなっている。

(4)骨折と体格の関連では男女共に肥満者に骨折率が低かった。

(5)女性の骨折と閉経年齢との関連では、骨折者閉経年齢は40歳後半、非骨折者閉経年齢は50歳前半に高い傾向が見られたが、有意な差ではなかった。

(6)カルシウム源となる牛乳・小魚の摂り方では、骨折者は牛乳を入所前に飲まない者が多かったが、入所後は施設の指導がゆき届いているためか、飲む率は少なくなっている。小魚についても、同様の傾向であった。